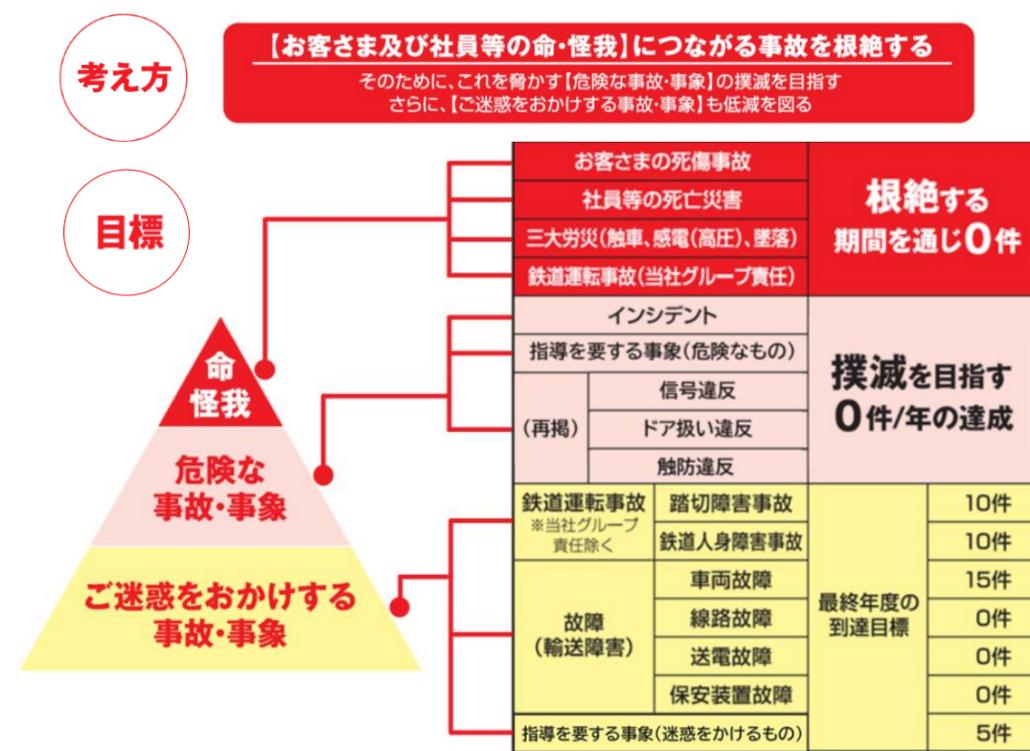
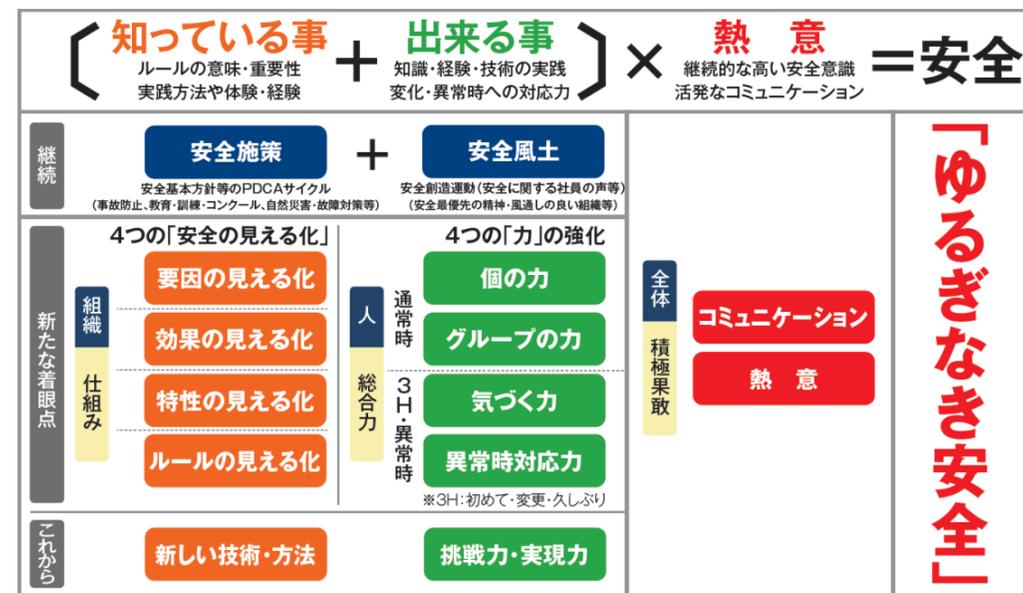


## 2 鉄道の安全確保に関する方針

### 2-1 安全中期計画2023-2025

安全中期計画とは、JR九州グループの鉄道事業部門における3カ年の取り組み方針と重点施策をまとめたものです。この計画に基づき、各年度の安全基本方針が策定され、各年度の安全基本方針に基づき、安全に関する各種取り組みが展開されます。現在は、2023年度からの3カ年計画である「安全中期計画2023-2025」に取り組んでいます。

安全中期計画2023-2025では、安全をつくる仕組みとして「安全の方程式」を設定しています。安全の方程式は「(知っている事+出来る事)×熱意=安全」で表され、『安全をつくるのは知識や技術だけではない。熱意が「ゼロ」なら安全は「ゼロ」、熱意が2倍なら安全は2倍!』との考え方を示しています。また、取り組みの新たな着眼点として、『4つの「安全の見える化」と4つの「力」の強化』を設定し、熱意を持った取り組みの展開により「ゆるぎなき安全」の実現に向け積極果敢に挑戦します。



### 2-2 2024年度 安全基本方針

2024年度は「安全中期計画2023-2025」の2年目として、一人一人の「個の力」を最大化し、コミュニケーションや気づきを大切にして「グループ総合力」を最大化することで、「ゆるぎなき安全」の実現に挑んでまいりました。

#### 総力をあげた「ゆるぎなき安全」への挑戦

<p><b>1. 【最重点項目】信号違反・ドア扱い違反・触防違反撲滅の取り組み</b></p> <p>(1)信号違反の撲滅に向けた取り組み ・安全パトロール等による実態把握と実務確認などによる個人を把握する仕組みの構築とフォローの実施 ・車両データ活用による取扱い誤りの予兆把握及び効果的な指導の実施 ・指導担当者のスキルアップや経験に応じた階層別研修の実施</p> <p>(2)ドア扱い違反の撲滅に向けた取り組み ・添乗・定点指導や目的・効果を伝える教育など基本動作定着へ向けた指導の実施 ・バックアップ装置の精度検証と要注意箇所における対策、注意喚起の実施</p> <p>(3)触防違反の撲滅に向けた取り組み ・安全意識の持続を目的とした定期的な教育及び理解度確認とフォローの実施 ・安全パトロール等による触車事故防止対策の実態把握</p>	<p><b>2. 安全をつくる仕組みの更なる充実</b></p> <p>・お客さま及び社員等の命・怪我、危険な事故・事象に対しては、分析手法を用いて原因・要因を見極め、複数の視点から危険要素を特定し効果的な対策の策定 (要因、効果の見える化)</p> <p>・個人や職場の特性の実態把握の強化 (特性の見える化)</p> <p>・事務連絡の棚卸による規程・マニュアル等の整理 (ルールの見える化)</p>	<p><b>3. 安全を支える社員等の総合力向上</b></p> <p>・個人の特性(身体機能や環境)に合わせた教育訓練の実施 (個の力)</p> <p>・安全の観察力(変化や差を気づかせる)を高めるための取り組み (気づく力)</p> <p>・あらゆる状況や体制等を想定したJR九州グループや行政機関等と一体となった異常時訓練の実施 (グループの力、異常時対応力)</p> <p>・大規模な輸送障害が想定された場合の情報把握、旅客案内等の対応力の強化 (異常時対応力)</p>	<p><b>4. 鉄道運転事故等の未然防止</b></p> <p>・鉄道運転事故、インシデントを防止するハード、ソフト面の対策と改善</p> <p>・国土交通省、各鉄道事業者と連携したテロ対策、暴力行為、迷惑行為の未然防止の推進</p> <p>・踏切道等の安全度向上の取り組みの推進</p>	<p><b>5. 激変する環境への柔軟で強靱な対応</b></p> <p>・激甚化する自然災害、テロや新たな脅威に対するソフト・ハード面の対策と改善</p> <p>・火災や地震・津波発生などを想定した避難誘導訓練の実施とマニュアルの検証</p> <p>・雪害、火山災害発生時における速やかな体制の構築と対応マニュアルに基づく迅速な対応</p>	<p><b>6. 車両・設備の故障防止</b></p> <p>・老朽化した車両、設備・機械の効率的な更新やリニューアル</p> <p>・計画的な車両・設備の保守計画及び故障防止対策の実施</p>
--	--	---	---	---	---

#### 新技術等による新たな安全への挑戦

- ・データの活用による故障の未然防止
- ・検査品質の向上や作業の安全性の向上等を目的としたAIやカメラ・センサー活用の推進